

上の山遺跡現地説明会資料

財団法人 大阪府文化財センター

上の山遺跡（交野市私部西5丁目地先・枚方市茄子作南町地先）の発掘調査は、第二京阪道路（大阪北道路）の建設に伴い、国土交通省・日本道路公団の委託を受け、大阪府教育委員会の指導のもと、平成15年度から行っています。

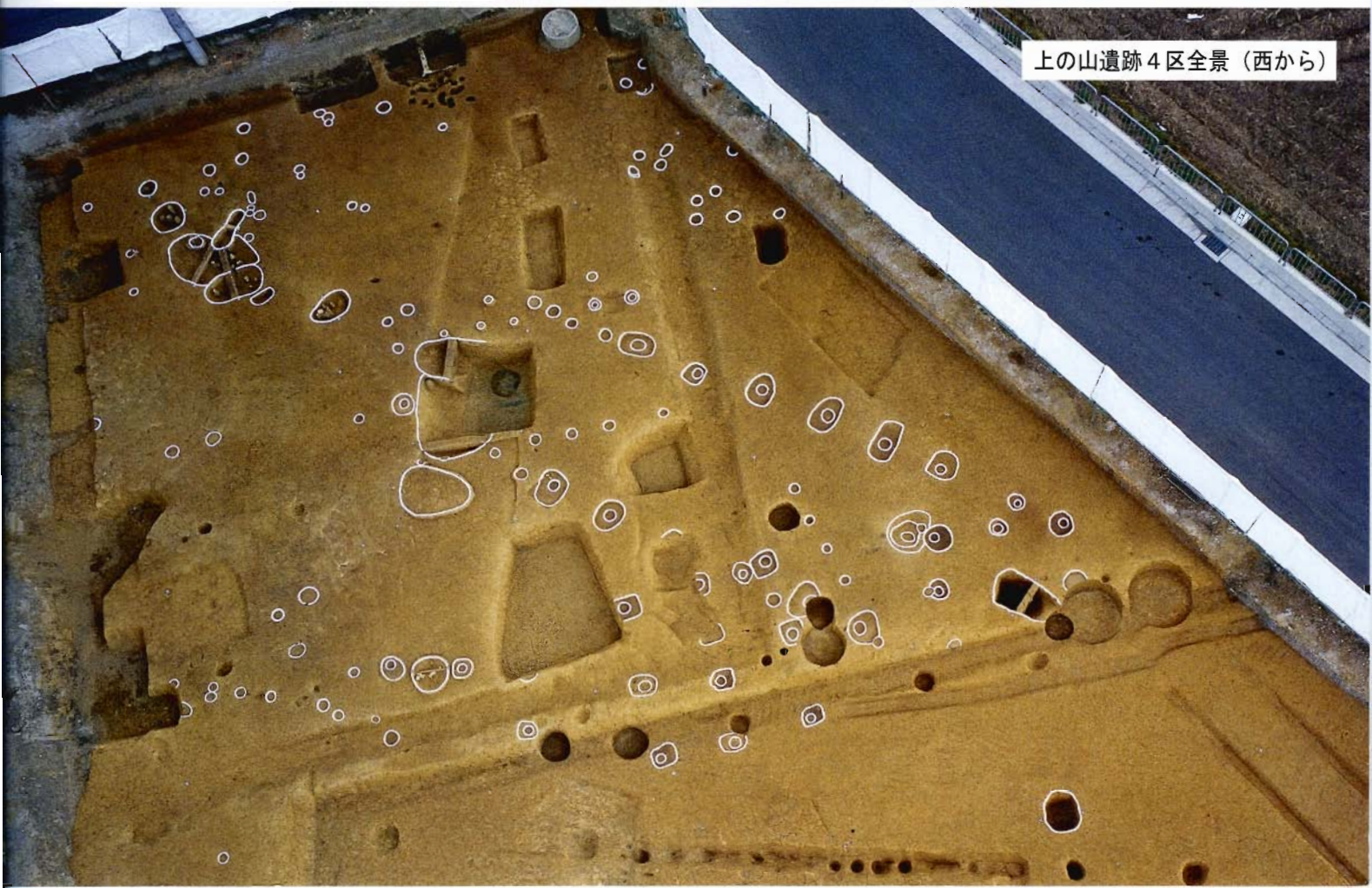
本遺跡は、天野川の西側にあたり、枚方丘陵から天野川に沿ってほぼ南北方向に細長く伸びる中位段丘（東西幅約100m）と、東西両側の谷に立地しており、これまでの調査で、旧石器時代から中世までの遺構や遺物が見つかっています。

今回の調査では、弥生時代中期前半（今から約2,200年前）の独立棟持柱をもつ大型掘立柱建物を1棟検出しました。建物は、遺跡が立地する段丘の最頂部（標高29.2m）にあたり、見晴らしがよく、周囲を一望できる高所に建てられています。

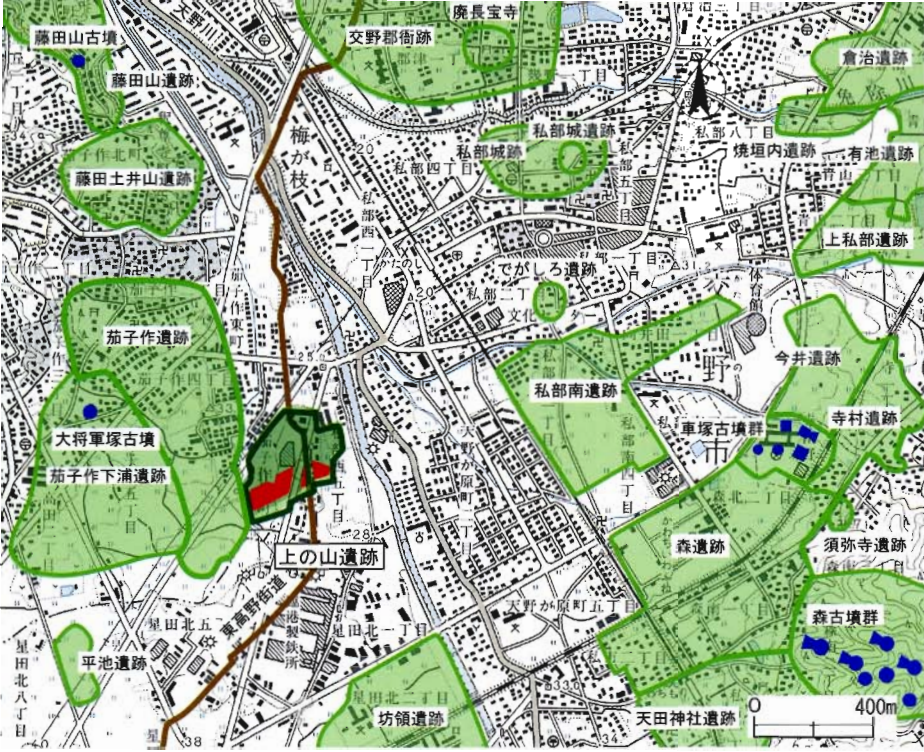
建物の規模は、1間（4.45～4.60m）×5間（8.60m）です。建物の柱穴（柱を立てるために掘られた穴）は、楕円形もしくは隅丸長方形で、建物の外側から内側に向かって斜めに掘られており、柱を滑り込ませて立てたものと考えられます。側柱の柱穴の深さは約0.3mですが、棟持柱の柱穴の深さは約0.9mもあります。

独立棟持柱をもつ大型掘立柱建物が、一般的な掘立柱建物や大型掘立柱建物と違う点は、建物の妻部から離れた位置にある棟持柱で、大きく張り出した屋根を支えることです。このような建物構造や、当時一般的には竪穴住居に住んでいたことなどから、独立棟持柱をもつ大型掘立柱建物は、特殊な建物として、「祭殿」「集会所」などであったとする意見もあります。

上の山遺跡の大型掘立柱建物は、ながめのよい場所に立地すること、独立棟持柱が建物の妻部から大きく離れた位置にあり、柱穴が大きくて深いことなどから、かなり高くて立派な屋根構造をもつ、シンボリックな建物であったと考えられます。



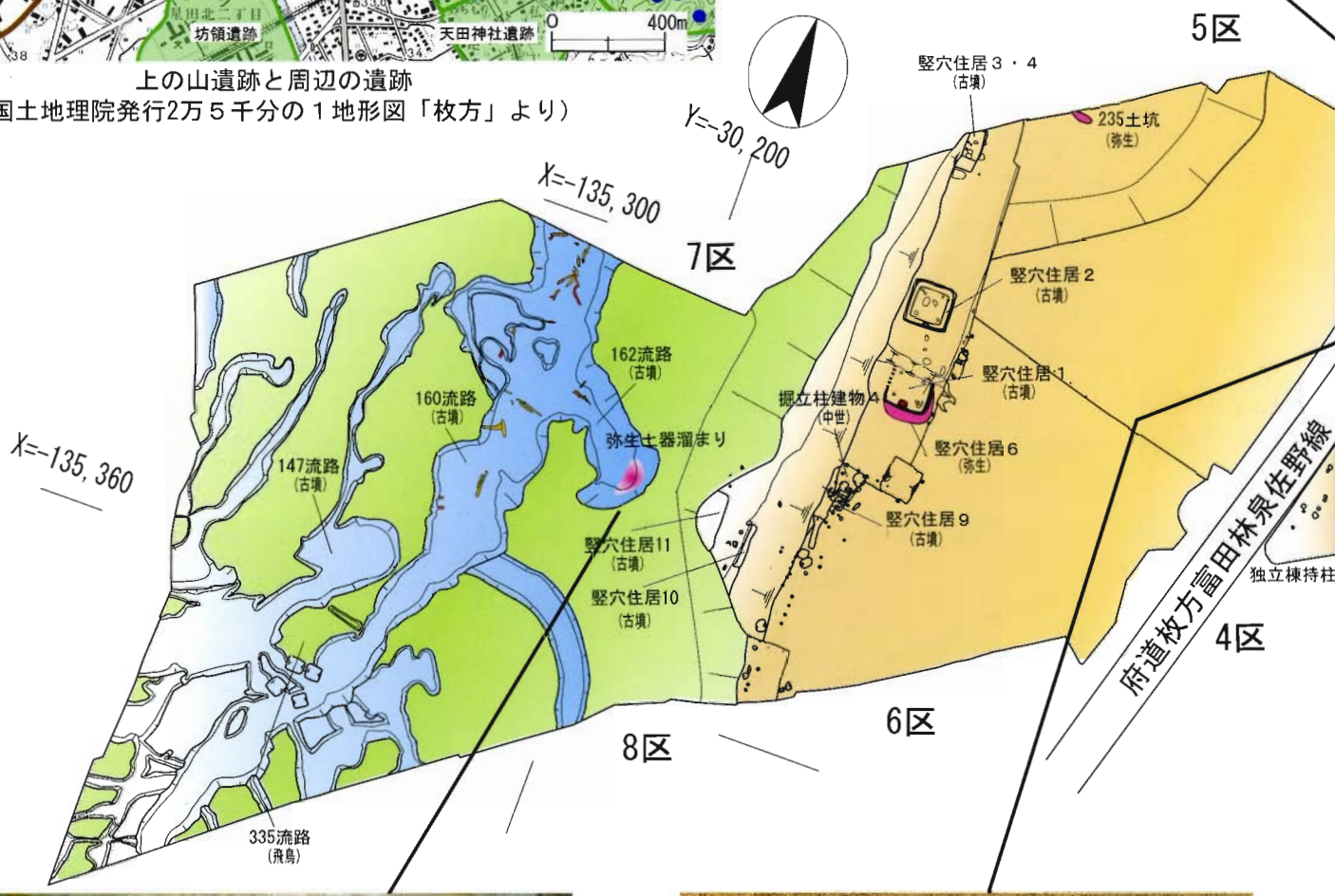
上の山遺跡4区全景（西から）



上の山遺跡と周辺の遺跡
(国土地理院発行2万5千分の1地形図「枚方」より)



土器や石鏃が出土した溝
(南から) / 3区



谷ぎわにできた弥生時代中期前半の土器溜まり
(北西から) / 4区

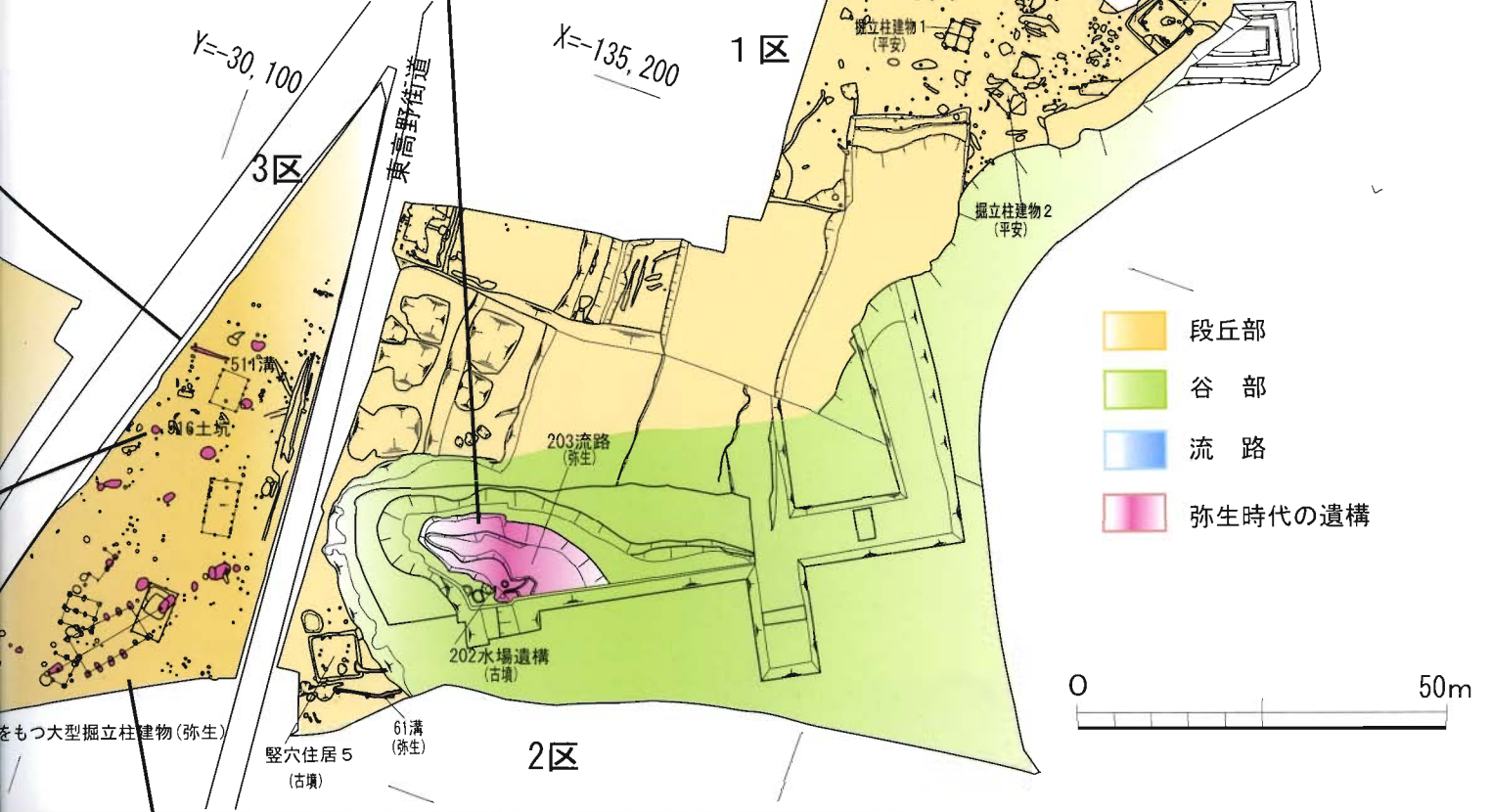
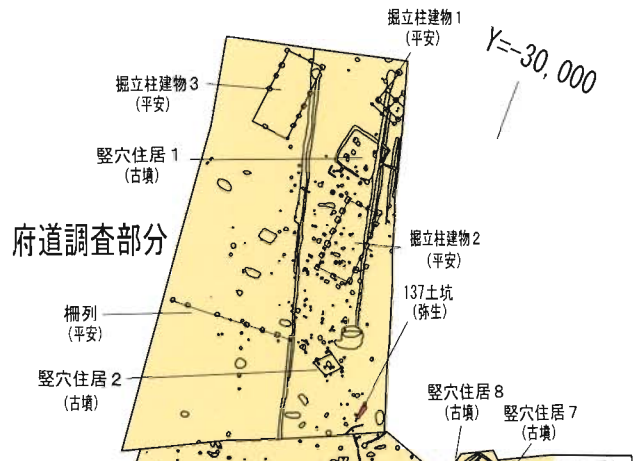


独立棟持柱をもつ大型掘立柱建物の周辺に分布する穴
(南から) / 3区

上の山遺跡遺構平面図 (S=1/1000)



段丘斜面に入り込んだ流路
(南東から) / 2区



独立棟持柱をもつ大型掘立柱建物
(西から) / 4区



独立棟持柱をもつ大型掘立柱建物
復元イメージ図

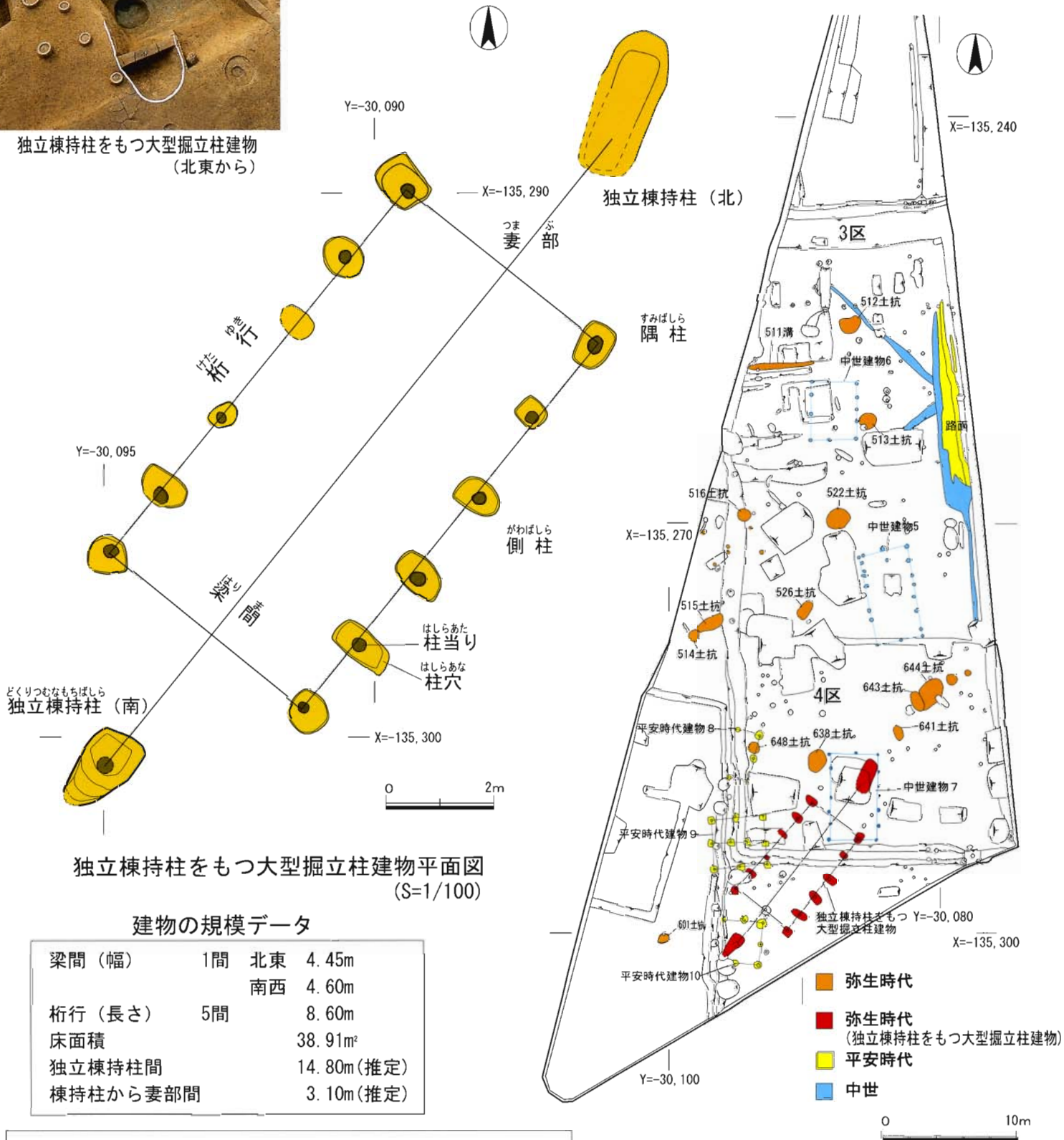
と弥生時代の主要な遺構



独立棟持柱をもつ大型掘立柱建物
(北東から)



復元された独立棟持柱をもつ大型掘立柱建物
(国史跡 池上曾根遺跡)



上の山遺跡現地説明会資料

発行：(財)大阪府文化財センター
〒590-0105 堺市竹城台3丁21番4号 TEL 072-299-8791
印刷：株式会社中島弘文堂印刷所 発行日：2005年3月6日

上の山遺跡3・4区遺構平面図 (S=1/400)